

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		小田原ひかり・Lino				公表日 2025年11月17日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		クールダウンスペースを室内・別室に設置した。 学習と遊びで部屋を分けており、人数が多くなり職員が揃つたら公園に行くようにしている。	スペースの活用法が環境構成も含め多様な場面に対応できるようとする。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		基礎・加配・専門も取れる人数で実施している。	急な休み等で支援内容が変更にならないよう実施する予定をくみなおしている。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		生活空間はわかりやすくなっていると思われる。 階段の手すりが届かない利用者もいるので改善が必要。 2つの部屋の大まかな使用目的を利用者につたえている。	玩具の置き場所・設備エリアが限られているため日常の整理が必要。 写真・絵で情報伝達はおこなっているが多様な方法を模索する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		子どもの視線に合わせて掲示部屋を活動別に分けて使用している。 毎日欠かさず清掃をおこなっている。 利用者の使用するものを使いやすいよう配置している。 常に整理整頓をしてい置く必要がある。	季節が感じられる内装の設えが手薄になってきている。（課題） 整理整頓の意識がスタッフ含め課題
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		不穏時・癪癪等個別対応が必要な場合別室にて 静かに過ごせる環境を意図的につくっている。 使用する場所・目的を決め共有している。	事務所等専用の仕様室がないのが課題 静かに過ごせる環境をもっとつくりだせるのではないか。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		PDCA委員会にて机上講義・実践研修を職員全員がおこなっている。 毎月の会議にて各担当報告をおこなってい	報告・改善・ふりかえりの情報が全員に行き渡っていない場合もあり記録の方法が課題
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		評価表から内容を確認し意向・意見等を把握している。相談に繋がる内容につながるケースもある。	無記名で記載することで普段伝えられないことがアンケートからみられる。危機感を持ってアンケートを集計している。どのようにつなげるが課題
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		ケース会議・事業所会議等で意見をもとめている。日々の業務内で話す機会をつくっている。 ミーティング・会議似て業務分担の話し合いをおこなった。	非常勤等への内容変更の伝達が不備であった。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		外部評価はおこなっていない。	外部調査は不要か不明
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		強行研修・実践研修・他事業所での研修に参加する機会を希望にそった形で機会をもうけている。	興味ある研修がどこでやっているかを職員一人ひとりが検索する意識が必要
支援プログラム	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		毎日の支援・週間・週末プログラムが書面化され打ち合わせ時各スタッフに周知できるようになっている。 日報や活動担当者により周知されている。	記載されていても内容の取りこぼしが有る。目の届くところにホワイトボードを置き記載している。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		アセスメント実施後個々の課題似合わせた企画を展開している。	保護者からの希望と子どもの習熟度を見ながら実施しているが目標までに届かない場合が多い。日々の様子を保護者に細かく伝えることで
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		ケース会にてアセスメント・モニタリングを周知し課題について日常活動の様子をもとに検討されている。	

適切な支援の提供	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	全体の活動の共通理解は紙面・打ち合わせにておこなわれている。 個別の支援については活動内容をもとに習熟度に合わせて計画されている。その時の子どもの状況にあわせているのが実情。 作成された計画書は職員が見られるようになっているが、個人で確認する時間・意識がひつようか。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	専門的支援計画記録・強度行動障害支援記録・個別記録を実施 アセスメントはもえぎ所定記録にて使用して	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	5領域にてらしあわせ支援内容を記載している。家族支援・地域支援については小田原市・相談支援員・保育所等訪問事業等との連携情報を具体記載している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	会議似で検討・立案担当を中心に準備・実施をおこなっている。 毎月会議似で全員で考察・決めている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	季節によって固定化している地域への参加プログラムがある。 月間予定での固定した企画に新規の企画をい	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別支援に沿った個別課題後小集団活動が毎回実施されている。 毎日計画にも記載されている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝の打ち合わせ時 支援時間前の打ち合わせ時 具体的実施内容 役割分担について話し合われている。職員配置	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	打ち合わせ時間としての設定はないが記録記入終了後に振り返りを スタッフ間で行って次回の支援の方向性を話	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	個別支援計画に基づく個別の記録・専門的実践記録 強度行動障害対象者～指南書・記録を毎利用	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年ごとに決めずに課題や問題があつたときは早めで アセスメント・モニタリングをおこなってい	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○	「日常生活の充実と自立支援のための活動」、 「多様な遊びや体験活動」、「地域交流の活	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	行動面においての自己選択は自分にかかつてくるものは すべて選択をうながしている。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達管理責任者・支援員が参画している。	
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	医療に関しては保護者を通してのケース多い。 障害福祉サービス 発達支援との連携は常時	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	関係機関連携会議・日頃の引取時での情報共有をおこなっている。 事業所でのトラブル・怪我などタイムリーに	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	契約前の面談時に任意で発達支援利用時の計画書等を開覧させていただいている。発達支援事業との相互	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	現状卒業者はいない。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターの相談員からの助言をうけている。 よく連携が取れていると思う。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	公園での地域児童との交流がある。 学童の交流はないものの、公園にて他児童と遊ぶ・関わる機会をもっている。	

	33 (自立支援) 协議会等へ積極的に参加しているか。	<input type="radio"/>	参加している。	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>	利用送迎時の保護者への報告・ラインでの写真・コメントを毎回実施している。伝えることは実施しつつあるが共通理解については小	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>	研修等のお知らせが滞っている。 個別に家族支援をおこなっている。	ペアトレの研修が基礎でとまっている。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>	契約時・契約変更時に説明をしている。 質問・理解等に関しての質問も頂いて対応している。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>	すべての家族の意向を確認する機会を支援計画モニタリング時にききとりとしておこなっている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>	同意の署名をいただいている。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>	頂いた相談に応じている。専門家等も聞けるように仲立ちをしている。 保護者様の悩みを聞き職員間で共有している。 適切な職員が丁寧におこなっている。	関係機関・専門家につなげるようとしている。課題としてつなげる機関が受けられないことが多いのが現状
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>	保護者会・作品展等保護者が交流する場を設けているが機会人としては時間・場所等検討が必要。 保護者会は設立していない。 保護者が集まるるような取り組みがスタート	
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>	苦情等頂いたときは迅速に誠意を持って対応することを旨としている。 速やかに対応している。	
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>	毎月カレンダーは配布・長期休み時の予定表等 インスタ配信・HPの発信をおこなっている。 SNSでの発信を定期的に行えると見る人もふえることがかんがえられる。	
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>	携帯電話のロック機能等 インスタの配慮等 氏名等がわからないようにしている。 紙面管理使用後は、シュレッター使用・廃棄している。	
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>	利用児童からの発信をのがさない。スタッフからの交流の方法も視覚支援（絵・動画）わかり易い言葉・表現 行動を提示できるよう	
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>	地域との交流を機会をもちながらおこなっている。 近隣住民への配慮も最大限をめざしている。 地域を招待するような行事を開催していない。	
非常時等	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>	家族への周知が不十分	時間帯ごとのスタッフ配置での訓練が必要か。
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>	研修を講義・実践ともにおこなっている。	
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>	保護者からの聴き取りスタッフ間で共有している。 変更があった場合も速やかに周知をおこなつ	医師の指導とともに学校医とのやり取りを教員を通して教示を頂いている。
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>	事務所内の掲示・保護者からのアレルギー対応経過を聴き取りの時に確認している。	前もっての提供物を保護者につたえている。 アレルギー対象者へ毎回何を食べたかどのような内容かつたえている。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>	外出時の安全計画（リスク・マネジメント）に付いては計画書に記載しスタッフ間での周知をはかっている。	

の 対 応	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>	安全確保を最優先した計画が前提 職員人 数・外出場所など保護者へのお知らせを前 もって行い承知をいただいている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>	共有している。月初めに前月のヒヤリの考察 ミ-テングを実施している。 小さな事例も共有し大きな事故トラブルを防	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>	研修を講義・実践ともにおこなっている。 適切な対応だったか懸念があるか 検討して いる。 研修似て話し合う機会が増え支援中もこれは 大丈夫か?と考えることがおおくなった。	閉鎖空間にしない。2人以上の目で状況を確認 する等をスタッフ間で実施している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>	研修を講義・実践ともにおこなっている。 保護者へ説明やお互いを納得できるような話 し合いがされている感じがする。	状況と判断を報告しながら検証していく。